

当日パンフレット

和泉の本龍寺 御遠忌法要

らつ けい ほう こく 本堂落慶奉告法要・れん によ しょうにん 蓮如上人500回御遠忌法要・ご えん き 宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要

3月30日(土) 31日(日)



いり も やしゆもくや ね 入母屋撞木屋根流れ向拝付
ごはい
木造本堂 188.145坪
間口7間×奥行11間
※1間=192cm



せんねんしょうじ ささもく せんねんすき
千年障子=笹杵浮造り千年杉板製



◎ご挨拶

本日は、拙寺御遠忌法要にご参詣を賜り、誠にありがとうございます。

本龍寺は、平安時代の末期よりこの地にあって、地域の人々とともに歩んで参りました。近代の本堂変遷史を紐解きますと、明治35年に失火により全焼し、昭和20年に三河大地震で倒壊しております。しかし、そんな困難の中でも、檀家・信徒の方々のご尽力によって再建がなってきたのは、仏法を学ぶ道場を次の世代にきちんと遺したいという熱いご懇念のたまものだと思ひに銘じております。

この度、皆さまのご理解・ご協力・ご尽力によりまして、新本堂建立が成就しましたこと、ここにあらためて厚く御礼申し上げます。新しくなった本堂が、念仏の道場として皆さまのお役に立てますように、ますます精進して参る所存です。

新しい時代の門出として、御遠忌法要を厳修致します。多くの方に関わって頂き、ともに創り上げる法要にしたいと存じます。今後とも、お導きを賜りますよう、お願い申し上げます。

平成31年3月

本堂建設委員会委員長 沓名昭二

住職 樋口祐慈

◎本堂建設までの経緯

平成27年5月	発起人会意向書発表
平成27年10月	本堂建設委員会発足
平成28年1月	建設趣意書配布
平成28年2月	建設内容説明会
平成28年4月	建設業者決定
平成28年7月	※魚津社寺工務店
平成28年9月	大感謝法要・事始め奉告式
平成29年7月	仏具修復業者決定
平成29年9月	※若林佛具製作所
平成29年10月	本堂感謝法要
平成29年12月	御本尊動座式
平成29年12月	本堂解体工事開始
平成29年12月	建設起工式
平成29年3月	土壌改良工事開始
平成29年5月	基礎工事開始
平成29年12月	建設立柱式
平成30年2月	建設上棟式・内覧会
平成30年7月	瓦葺き工事開始
平成30年8月	鬼瓦設置
平成30年10月	棟札設置
平成30年11月	稚児申込み開始
平成30年12月	全足場撤去
平成31年1月	仏具一式納入
平成31年1月	本堂竣工式
平成31年3月	御本尊還座式
平成31年3月	千年障子納入
平成31年3月	本堂竣工式

御本尊御身拭式



御本尊動座式



大感謝法要・本堂建設事業事始め奉告式



建設上棟式



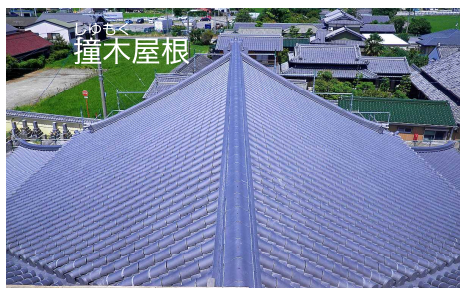
建設起工式



御本尊還座式



ろくじょう まんじやく
六 鳥仕様のオリジナル前 卓



しゆちく
撞木屋根



三月三十日(土) 九時

◎本堂落慶奉告法要

先ず 乱声 下臈出仕

次 出仕 本堂建設委員長

次 着座 稽首天人 3P中 附物

次 総礼

次 挨拶

次 伽陀

次 登高座

次 表白

次 伽陀

次 御経

次 下高座

次 伽陀

次 総礼

次 正信

次 念佛

次 和讃

次 初重

萬行之中 3P中 附物
仏説阿弥陀經 起立散華

直入弥陀 3P下 附物

草四句目下
淘五 4P上 三重念仏 附物

弥陀成仏のかたは 4P上
自利利他円満して 4P中

次 廻向 三重大 十方微塵世界の 4P下
次 総礼 願以此功德 5P上 附物
次 出楽 下臈退出

誓首天人 所恭敬

阿彌陀仙兩足尊

在彼微妙安樂國

無量佛子衆圍繞

萬行之中爲急要

迅速無過淨土門

不但本師金口說

十方諸佛共傳證

直入彌陀大會中

見佛莊嚴無數億

三明六通皆具足

憶我閻浮同行入

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無

彌陀成佛のこのかたは

いまに十劫をへたまへり

法身の光輪きはもなく

世の盲冥をてらすなり

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無

自利々他圓滿して

歸命方便巧莊嚴

ころもことばもたへたれば

不可思議尊を歸命せよ

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

十方微塵世界の

命斷須臾生安樂

善知識にあふことも

おしふることもまたかたし
よくきくこともかたければ
信ずることもなをかたし

一代諸教の信よりも

弘願の信樂なをかたし
難中之難ととまたまひ
無過此難とのべたまふ

念佛成佛これ真宗

萬行諸善これ假門
權實眞假をわがずして
自然の淨土をえぞしらぬ

三月三十一日(日) 九時
◎親鸞聖人750回御遠忌

第一日中法要

につちゆう

先乱声 出仕
次 着座 樂
次 總禮
次 伽陀
次 登高座 樂
次 表白
次 伽陀
次 御經

稽首天人 3P中 附物

先請彌陀 6P中 附物

仏説無量壽經(抄) 音木有之

次 下高座 樂
次 伽陀
次 總禮
次 正信 偈
次 念佛 讚
次 和讃
次 初重
次 二重
次 三重
次 退
次 出
次 出

直入弥陀 3P下 附物

草四句目下 三念仏 附物

弥陀大悲の誓願の 7P上

聖道門のひとはみな 7P上

釋迦の教法ましますと 7P中

世尊我一心 7P中 附物

下臈退出

大經 上卷
先請彌陀入道場

不違弘願應時迎

觀音勢至塵沙衆

從佛乘華來入會

○彌陀大悲の誓願を

ふかく信ぜんひとみな
ねてもとめてもへたでなく
南無阿彌陀佛をとなふし

聖道門のひとみな

自力の心をむねとして
他力不思議にいりぬれば
義なきを義と信知せり

釋迦の教法ましませど

修すべき有情のなきゆへに
さとりうるもの末法に
一人もあらじときたまふ

五濁
回向

世尊我一心
歸命盡十方
無碍光如來
願生安樂國

三月三十一日(日) 十三時半
○親鸞聖人750回御遠忌

第二日中法要

先乱
次発聲

庭儀有之
参進・昇堂

次着座
次仕楽

下臈出仕

次出
次総礼

稽首天人 3P中

附物

次伽陀
次登高座楽

兼 賦華籠楽

次御經
次登高座(直登)賦華籠

兼 賦華籠楽

行道散華

次下高座楽
次兼 撤華籠楽

兼 撤華籠

次伽陀
次總礼

若聞此法 5P下

附物

次文類偈
次念佛讚

草四句目下

次念仏
次念仏申詰・結讃位上曲

念仏申詰・結讃位上曲

次初重
次二重
次三重

三朝浄土の大師等 8P上

次和讃
次他力の信心うるひとは

他力の信心うるひとは 8P下

次回
次願以此功德

願以此功德 9P上

げろ うたいしゆつ
下臈退出

入初重初南一
無一
阿一
彌一
陀二
佛三。

南_一南_三南_一南_三南_三無_一
無_一無_一無_一無_一無_一阿_一
阿_一阿_一阿_一阿_一彌_一
彌_一彌_一彌_一彌_一陀_三
陀_三陀_三陀_三佛_三
佛_一佛_一佛_一佛_一

三朝淨土の大師等
哀愍攝受したまひて
眞實信心すゝめしめ

定聚じようじゆのくらゐにいれしめよ

[illegible]

他力の信心あるひとを

うやまびおほきによりこぼ
すなほちわが親友ぞと
教主世尊はほめたまふ

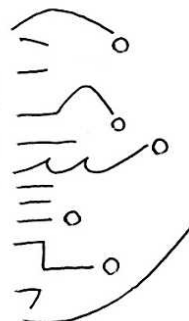
重三
南一
南二 南三 南一 無一 南二 南一 南一
無一 無一 無一 阿一 無一 無一 無一
阿二 阿二 阿三 彌一 阿二 阿二 阿二
彌一 彌一 彌一 陀二 彌一 彌一 彌一
陀一 陀二 陀二 佛二 陀二 陀一 陀一
佛一 佛二 佛二 佛一 佛三 佛一

申づめ
南無阿彌陀佛、南無阿彌陀佛、

位上曲

六拍間

如來大悲の恩徳は



初重 二重 三重

※位上曲とは、真宗大谷派の声 明の中で、最も嚴肅なお勤め。調声は緩やかに低音より発声し、複雑で莊重な節を経ながら高音域へと導かれる繰上げ調声。その後附膚という助音が和讃二句目の頭を発声。続いて全員が声の限り発声し、クライマックスを迎えます。

附膚

身を粉にしても報ずべし
師主知識の恩徳も

ほねをくだきても謝すべし

願以此功德
平等施一切
同發菩提心
往生安樂國

◎満座御礼之儀

- 一、奏楽 千秋楽 一奏
- 一、御言葉 東本願寺鍵役 信明院殿
- 一、感謝状贈呈

- 株式会社 魚津社寺工務店様
- 株式会社 若林佛具製作所様
- 有限会社 立希様
- 一、挨拶 本堂建設委員長 沓名昭二
- 一、謝辞 住職 樋口祐慈

本龍寺本堂落慶記念曲

◎弘誓のちからをかぶらずは

親鸞聖人作〈高僧和讃・善導大師〉
平田聖子 作曲

弘誓のちからをかぶらずは
いずれのかきか姿婆をいでん
仏思ふかくおもいつつ
つねに 弥陀を念ずべし
つねに 弥陀を念ずべし
仏思ふかくおもいつつ
南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏
南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏
弘誓のちからをかぶらずは
いずれのかきか姿婆をいでん
弘誓のちからをかぶらずは
いずれのかきか姿婆をいでん
つねに 弥陀を念ずべし
つねに 弥陀を念ずべし
つねに 弥陀を念ずべし
つねに 弥陀を念ずべし
仏思ふかくおもいつつ
南無阿彌陀仏

◆ 建設工事点描 ◆



総重量約600トンの一体基礎



トラス構造の小屋組



90ミリ角面格子の耐震補強壁



大屋根の内部



深さ約1.5メートルの余間床下



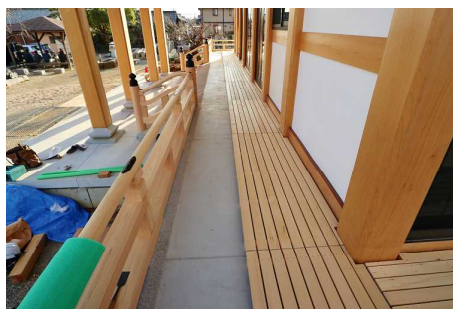
前・前々本堂大虹梁を外陣框に
だいこうりょう げしんかまち



大間床下は約1メートルの空気層
だいま



幅2間の渡り廊下
けん



フルオープン式二重ガラスサッシ



3月30日(土)	
9:00	ほんどうらっつけいほうこくほうよう 本堂落慶奉告法要 〈本堂・1時間20分〉
10:20 10:35	きょうさん 慶讃イベント① 〈本堂・1時間25分〉
12:00	昼休み
13:00	れんによしようにん ごえん き 蓮如上人500回御遠忌法要 〈本堂・1時間20分〉
14:20 14:35	きょうさん 慶讃イベント② 〈本堂・30分〉
15:05	

3月31日(日)	
9:00	しゅうそしんらんしようにん ごえん き 宗祖親鸞聖人750回御遠忌 第一日中法要 〈本堂・1時間20分〉
10:20	
11:00	ち ごぎょうれつ ていぎさんどうれつ 稚児行列《庭儀参道列》 〈丈山小学校 ⇒ 本龍寺本堂参拝 ⇒ 境内南広場 ⇒ 丈山小学校〉 行列コース = 1,300m
13:30	しゅうそしんらんしようにん ごえん き 宗祖親鸞聖人750回御遠忌 第二日中法要 〈本堂・1時間20分〉
14:50	まんざおんれいのぎ 満座御礼之儀 〈本堂・30分〉
15:20	

※「御仏前」「お供え」などのご心配いりません ※30日(土)午前の本堂落慶奉告法要にお参りをされた方には、おさがり〈紅白祝餅〉と五目ご飯をお出しいたします

きょうさん 慶讃イベント①	●三河万歳 (丈山小学校有志児童) ●祝舞 (西三河雅楽研究会) ●仏教讃歌 (本龍寺合唱団 + 大谷大学OB混声合唱団 + 日曜学校卒業生 + 有志)
きょうさん 慶讃イベント②	●しんらん音頭 (本龍寺同推会 + 同朋婦人会OG + 有志)



あかほんくん



蓮ちゃん



鸞恩くん



真宗大谷派 **本龍寺**

〒444-1221 愛知県安城市和泉町中本郷41
TEL.0566-92-0505 FAX.0566-92-5212